

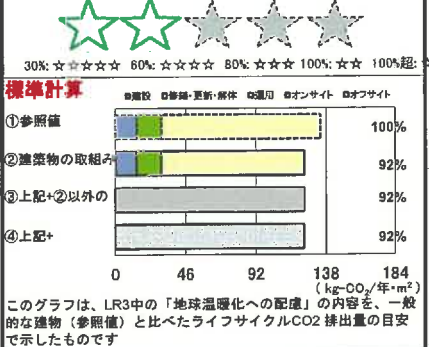
CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

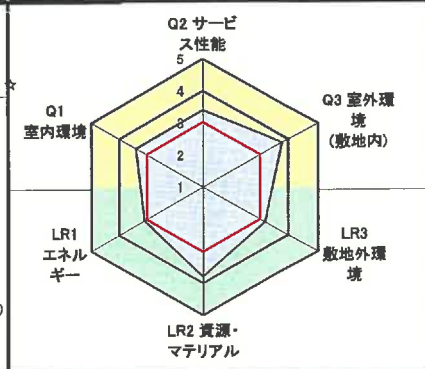
評価結果

1-1 建物概要					1-2 外観
建物名称	鳥取地家簡裁庁舎新営工事		階数	地上3F・地下1階	
建設地	鳥取県鳥取市東町2丁目223		構造	SRC造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域		平均居住人員	100 人	
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所,		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年3月 予定		評価の実施日	2023年4月5日	
敷地面積	7,328 m ²		作成者	東畑建築事務所	
建築面積	1,969 m ²		確認日	2023年4月5日	
延床面積	6,939 m ²		確認者	東畑建築事務所	

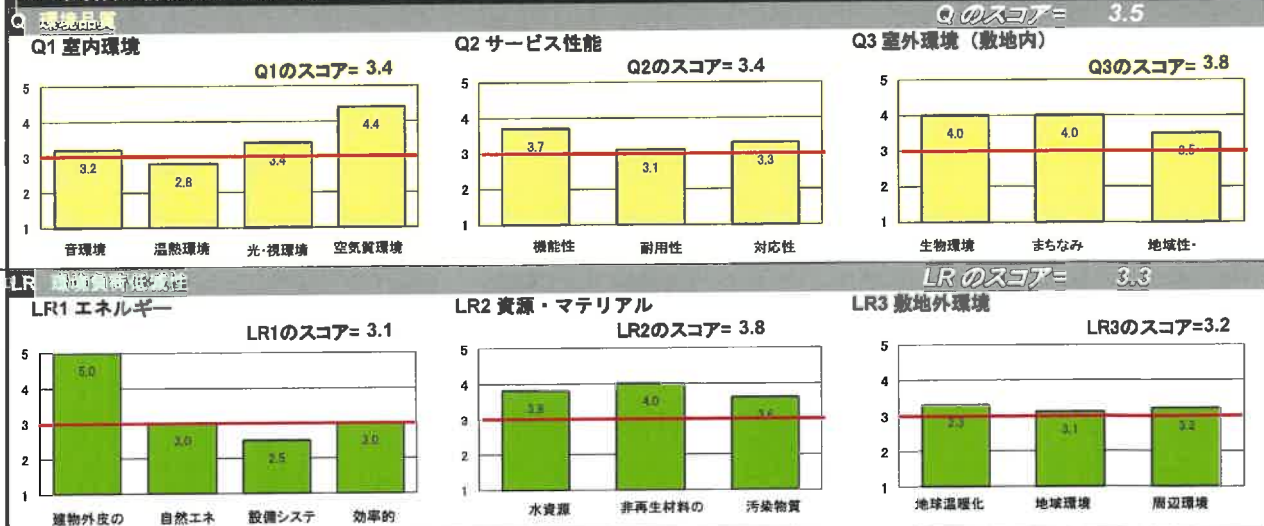
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総括 庁舎としての要求水準を満足させると共に屋根・開口部における断熱材の適正配置、開口部廻りの遮熱対策により、外皮の熱負荷抑制に努めている。既存樹木の保存と緑化指数30%以上の外構植栽による生物環境への配慮、街並み景観へ配慮、空気環境への配慮、リサイクル材の使用による非再生材料の使用量削減等について、標準以上の取組を行っている。			その他 特になし
Q1 室内環境 建材はF☆☆☆☆を全面的に採用し、化学汚染物質発生を最小化すると共に建衛法の1.2倍の換気量の確保並びに全館禁煙に努めており、空気環境において標準以上の取組を行っている。	Q2 サービス性能 多目的トイレの各階配置やスロープの適正整備等によるバリアフリー計画、執務空間の心理性や快適性への配慮、維持管理に配慮した内外装材の使用等により、機能性において標準以上の取組を行っている。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存樹木を保存すると共に外構緑化指数30%の緑量を確保している。建物高さや屋根形状、色彩において街並み景観との調和を図ると共に沿道沿いの植栽により良好な景観創出に取り組んでいる。	
LR1 エネルギー 断熱材厚みは屋根50mm、壁25mmとし、開口部廻り、庇とブラインドを併用、ガラスは複層ガラスとし、南・東・西面には遮熱Low-eを採用することで、断熱と遮熱性能の向上を図っている。	LR2 資源・マテリアル 雨水を再利用するシステムと共に節水型衛生器具を採用し、水資源保護に努めている。基礎躯体、地盤、路盤にリサイクル材を活用、OAフロア等の採用により部材の再利用可能性向上にも寄与している。接着剤等の建材には指定含有物質を含まない建材を採用している。	LR3 敷地外環境 駐車場及び自転車置場の適切な量の確保と共に導入路の適切な配置等により地域交通インフラへの負荷抑制に配慮した計画になっている。光害の抑制に関するガイドラインの規定をほぼ満足するように対策を講じている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される